別紙１

書評合戦（ビブリオバトル）の進め方

【書評合戦（ビブリオバトル）」のルール】

① 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。

② 順番に一人５分間で本を紹介する。

③ それぞれの発表の後に、参加者全員で、その発表に関するディスカッション（質疑等）を２～３分間行う。

④ 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

＊ ビブリオバトルは、立命館大学 谷口忠大　先生によって考案されたものであり、上記ルールは、ビブリオバトル普及委員会の公式ルールである。

１　新型コロナウイルス感染症対策の徹底

書評合戦（ビブリオバトル）を行うに当たっては、下記のとおり新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施をする。

⑴　発表者からの飛沫感染を防止するために、必要性に応じてアクリル板の設置をする。

⑵　生徒は感染防止対策を施し、間隔をおおむね１～２m確保する。その際、対面とならないよう留意する。

⑶　十分な広さの会場で行うとともに、エアコン使用時においても十分換気を行う。

⑷　その他、オンラインによる実施を検討するなど、学校の創意工夫により開催する。

２　本の選定について

発表者が選ぶ本のジャンルは問わない。あくまで、発表者自身が、聴衆者に紹介したいと思うお気に入りの本を選んで持参する。

３　発表方法について

発表者は、与えられた５分間の中で、自分の好きなタイミングで、持参した本のタイトルを聴衆者に提示することができる。それゆえ、発表者が登壇する際、司会は、発表者が持参した本のタイトルを紹介しない。発表者は、事前に何を話すか等をまとめておくことは必要だが、生き生きとした発表を行うよう心掛け、事前に用意した原稿やレジュメ等をひたすら読む等のプレゼンテーションは行わない。

４　司会及び時間の計測方法について

⑴　会場には、全体の進行を行う司会、発表者の発表時間５分間及びディスカッション（質疑等）２～３分間を計測するタイムキーパーの２名を配置する。司会及びタイムキーパーは、教員、生徒の誰が行っても良い。

⑵　ノートパソコン等にタイマープログラムをインストールして残余の時間を表示する。大きな会場で実施する場合は、プロジェクタ等を用いて残余の時間を表示する。

なお、パソコンやプロジェクタを用意できない場合は、画用紙に残余の時間の目安となる「残り時間５分、４分、３分、２分、１分、３０秒、１５秒等」を書いて発表者及び聴衆者に知らせることも可能である。

⑶　発表者の５分間及びディスカッションの２～３分間が経過したらベルを鳴らし、そこで全ての活動をストップさせる。

５　ディスカッションの方法について

発表者の５分間の本の紹介が終了したら、参加者全員（発表者以外の他の発表者及び聴衆者）が挙手により、発表者に質問をする。例えば、「なぜその本を選んだのですか？」「その本のどの部分が一番心に残っていますか？」「その本は映画化されていますが、映画で見たことはありますか？」「映画で見た時と本を読んだ時とどこか違いがありましたか？」等が考えられる。それらの質問に発表者が答える。

６　投票（挙手による）の方法について

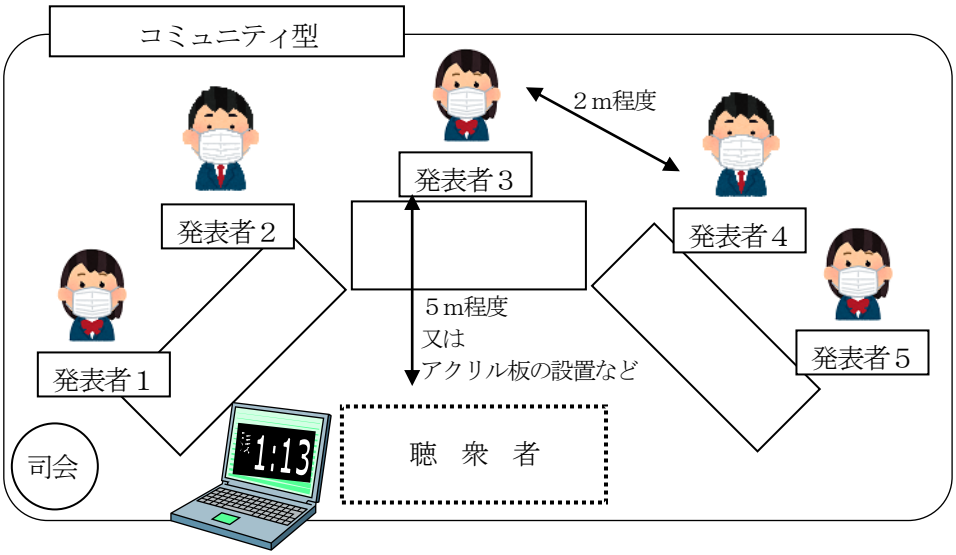
発表者も、自分以外の発表者の中で読みたくなった本に挙手をする。発表者の人気投票ではなく、あくまでも、どの本が読みたくなったかを基準に、参加者全員が挙手をしてチャンプ本を決定する。なお、同数の票によりチャンプ本を選ぶことができない場合は、「同率チャンプ本とする。」又は、「決選投票をしてチャンプ本を決める。」のどちらでもよい。

７　校内予選の形態

各学校の生徒の実態に合った方法で校内予選を実施する。

(1)　コミュニティ型（少人数で行う形態）

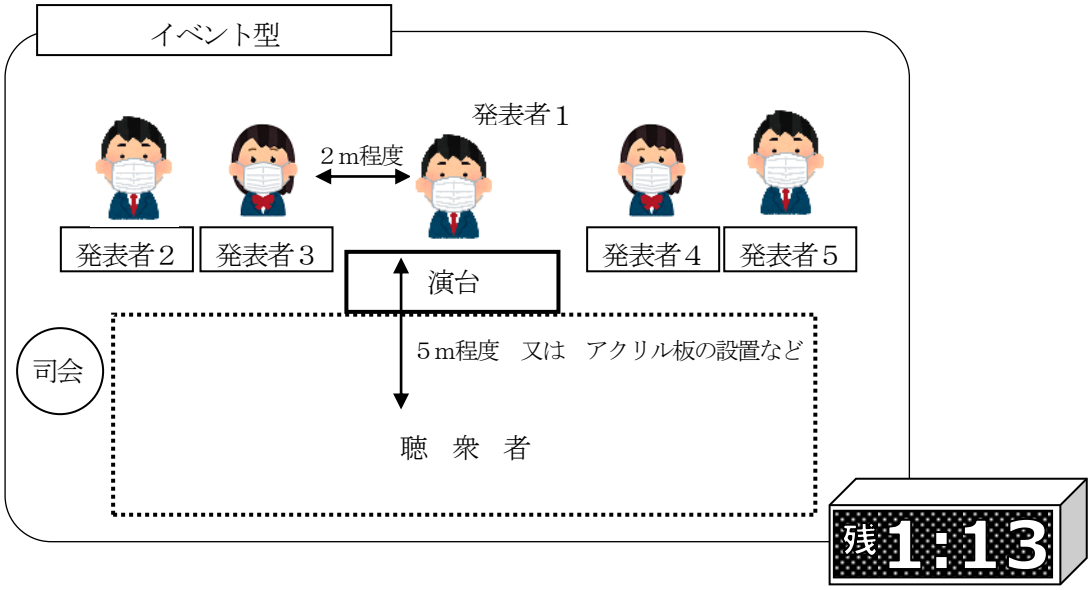
- 発表者５名、聴衆者５名前後のグループ１０名程度
- 図書委員会、文芸部、校内有志等により実施
- 会場を図書館や教室等に設定



［残余の時間を知らせる］

(2)　イベント型（大人数で行う形態）

- 発表者は各クラスの代表者、聴衆者は該当学年の全生徒
- 特別活動に位置付けて学年全体により実施
- 会場を体育館や講堂に設定



［残余の時間を知らせる］